

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 49 回）議事概要（案）

日時：令和 5 年 5 月 22 日（月）15:00～17:00

場所：Web 会議(Webex)

出席者：

伊丹主査（東京理科大学）、大槻主査代理（慶應義塾大学）、
赤羽専門委員（NTT 未来ねっと研究所）、岩崎専門委員（東京農工大学）、
浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、
下地専門委員（パナソニック(株)）、西田専門委員（日本放送協会）、
半澤専門委員（(株)TBS テレビ）、廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、
藤井専門委員（日本放送協会）、丸茂専門委員（株式会社テレビ東京ホールディングス）、
明堂専門委員（株式会社 KDDI 総合研究所）、山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

説明員：

大出氏（日本放送協会）、近藤氏（(株)TBS テレビ）、齋藤氏、（日本放送協会）、
佐藤氏（日本放送協会）、當山氏（日本テレビ放送網(株)）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課

翁長課長、西室技術企画官、谷田補佐、高橋係長、荻原官

【配布資料一覧】

資料 放-49-1	放送業務委員会(第 48 回)議事概要(案)
資料 放-49-2	WP6A 会合報告書 (案)
資料 放-49-3	WP6B 会合報告書 (案)
資料 放-49-4	WP6C 会合報告書 (案)
資料 放-49-5	SG6 会合報告書 (案)
資料 放-49-6	<u>次回会合に向けた今後の対応 (案)</u>
資料 放-49-7	<u>郵便投票の承認可否 (案)</u>
資料 放-49-8	今後の検討スケジュール (案)
資料 放-49-9	国際電気通信連合 (ITU) 2023 年世界無線通信会議 (参考資料) (WRC-23) の議題一覧 (第 146 回情報通信審議会情報 通信技術分科会資料一部抜粋)
資料 放-49-10	放送業務委員会構成員名簿 (参考資料)
資料 放-49-11	<u>郵便投票関連文書</u> (参考資料)

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

伊丹主査より、資料 放-49-1「放送業務委員会（第 48 回）議事概要（案）」に基づき、第 48 回放送業務委員会の議事概要案の確認が求められた。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

3. ITU-R SG6、各 WP 会合の結果について

3.1. WP6A 会合の結果について

佐藤氏より、資料 放-49-2「WP6A 会合報告書（案）」及び資料 放-49-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。

3.2. WP6B 会合の結果について

大出氏及び近藤氏より、資料 放-49-3「WP6B 会合報告書（案）」及び資料放-49-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

山影専門委員： 次回会合に向けた今後の対応（案）6B/261 An. 1. 3 の勧告 ITU-R BT. 2074-1 改訂草案は、中国提案で Smart Media Transport (SMT) を追加する改訂とのことだが、この SMT とは中国国内で標準化された技術なのか。

近藤氏： そのとおり。中国国内で標準化されている技術である。基本的には MMT であり、拡張領域を利用してイマーシブなどにも対応したトランスポート規格である。

山影専門委員： 勧告からは中国規格が参照されるのか。

近藤氏： そのとおり。

廣野専門委員： 次回会合に向けた今後の対応（案）6B/261 An. 2. 2 は、リニア配信の URL のような情報を受信機へ届けることを課題とするものだと理解しているが、欧州の DVB-I システムも同じ課題に取り組んでいると思うが、それと関連しているのか。関連するのであれば欧州はどのような意見を出しているのか。

近藤氏： 本件は、韓国の Lee 教授から出された提案であるが、DVB-I と整合を取ったり韓国の有力なメーカーと共同した提案というよりは、Lee 教授自身が様々なハイブリッドコンテンツにリモコンチャンネルを割り当てることを考えて提案したものだと思う。

西田専門委員： 延世大学の Lee 教授が韓国代表団の中で中心となって提案をしているが、韓国大手の受信機メーカーと相談した結果ではなさそうである。この提案が意図していることは、DVB-I が目的としているサービス発見と全く異なるということはなく、解決しようとしている課題自体は同じような部分がある。電子メールで情報を伝送するという提案だが、DVB-I は既に標準化されてトライアルベースのサ

ービスも始まっている状況であり、ITU-Rとして今更電子メールでこのような情報を配信するものを勧告化するというのはいかなるものかと思う。

廣野専門委員： 承知した。

西田専門委員： 山影専門委員から質問のあった SMT についても補足したい。SMT は MMT を拡張したものだというのが MPEG でも確認されたので、ITU-R では MMT を放送に使用する勧告に SMT を追記した改訂草案を作成したものである。

西田専門委員： 6B/261 An. 1. 5 のクラウドの利用については、これまで2回にわたり日本から寄与文書を出してきたものの、諸外国からの食いつきがなかなかない状況である。他国の考えなど現地で収集された情報があれば伺いたい。また、国内でもクラウドをマスターに使用することが総務省の会議でも検討されていると承知しており、本レポートに盛り込まれていない技術や、クラウドの活用の方策について今後示して行ければ良いと考えている。マスターでの使用について国内での検討状況を伺いたい。

また、6B/261 An. 1. 8 や 6A/417 An. 4 は IP ベースの放送サービスを行う際のバックホールのことだと理解しているが、国内でも IP ベースの次世代地デジの検討が進んでおり、それを実際に行っていくうえでこのようなものも必要になってくると想像している。IP ベースならではの活用の仕方やソリューションについて検討されていることがあれば、寄与していけるのではないかと思う。国内の検討状況について伺いたい。

山影専門委員： STL 区間で送るためのインターフェースを IP 化する際のプロトコルに関して、NHK が映像情報メディア学会で過去に発表していたと思うが、それと似たような技術なのか。IP のプロトコルに関しては NHK で検討しているのではないか。

西田専門委員： NHK での検討が IP を上手く利用したものになっているのかは不案内のため、先ほどの質問をした。

山影専門委員： IP を活用したものになっているかどうかは把握できていない。

西室技術企画官： クラウド化に関して、放送設備のクラウド化及び集約化に伴う安全・信頼性に関する技術的条件を、現在放送システム委員会の下に作業班を作り検討しようとしている。その前段階として、現在は放送設備の IP 化に伴う技術的条件を検討しているところ。クラウド化については、IP 化と平行して検討を行わなければならないことであり、クラウド化をしていく中でどういう場合はどのようなモデルで考えるべきかというような、抽象的な面から検討を始めていると認識している。

西田専門委員： クラウドの利用に関する本新レポートの中では、クラウドを活用することにどのようなメリットがあるのかという点も記載できるとよいと考えている。放送システム委員会での検討の結果も SG6 に今後寄与できるとよい。

西室技術企画官： 放送システム委員会での検討状況だが、当初は IP 化に伴う安全・信頼性について4月頃まで検討し、5月頃にパブリック・コメントを実施予定であったが、議論が延びており、未だ報告書案の意見募集に入れていない状況である。それに伴

い、クラウド化の安全・信頼性の議論が遅れている状況である。まず放送システムの IP 化がどのようなものを議論し、その後クラウドマスターの標準モデルを作成予定である。現在、関係者にヒアリングを行いながら、どのようなモデルケースがあり得るかの議論を行いつつ、その中で安全・信頼性対策として必要なものが何かについても議論している。

西田専門委員： この議論の趣旨は、IP 化やクラウド化がどのように役立つのかという観点ではなく、それらを使用することに伴うリスクを管理し、ネガティブなことが起こらないようにすることか。

西室技術企画官： もともと放送局の機器には安全・信頼性基準がかかっているが、今やっている議論は IP 化やクラウド化に際しての当該基準の見直しの議論。それは何を守って良いか明確でないことにより IP 化やクラウド化について二の足を踏むということがないようにする面もある。

3.3. WP6C 会合の結果について

大出氏及び當山氏より、資料 放-49-4「WP6C 会合報告書（案）」及び資料放-49-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。

3.4. SG6 会合の結果について

齋藤氏より、資料 放-49-5「SG6 会合報告書（案）」に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われ、案のとおり承認された。西田専門委員より SG6 会合の所感が述べられた。

西田専門委員： 今回の SG6 会合では報告にもあったとおりワークショップや技術デモを実施したことが普段の SG6 会合と異なる特徴的な点であった。

また、「将来の放送の枠組み」に関する新レポートが承認されたことが最大の成果物であると考えている。将来の放送に向けて取り組むべき課題や夢が述べられている。今後国内にとどまらず、国際的なことも含め、新しい将来の放送を目指していくうえで参考にしていきたい。

4. その他

4.1. 郵便投票の承認可否（案）について

事務局より、資料 放-49-7「郵便投票の承認可否（案）」に基づき、ITU から照会されている勧告改訂案 11 件、研究課題改訂案 2 件について説明が行われ、特段意見なく承認された。

4.2. 今後の検討スケジュールについて

事務局より、資料 放-49-8「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上